

## 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：児童福祉費 目：児童福祉諸費

### 事業名 保育研究事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

も・女性部 子育て支援課 保育支援係 電話番号：058-272-1111(内3536)

E-mail：c11236@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 324 千円 (前年度予算額：324 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	324	0	0	0	0	0	0	0	324
要求額	324	0	0	0	0	0	0	0	324
決定額	324	0	0	0	0	0	0	0	324

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・岐阜県保育研究協議会(※)は、昭和40年に県社会福祉協議会保育部会（昭和26年設立）と県保母会（昭和36年設立）の統合により設立された公立・私立保育所等で構成する任意団体であり、保育士の資質向上、保育内容の充実を図るため、保育に関する研修会や研究発表会等の実施、保育所等の新たな役割や保育のあり方についての研究活動を実施している。
- ・同協議会による保育需要の多様化に対応するための研究や啓蒙活動等、自主的な研究活動を支援することにより、保育の質の維持向上を図るもの。

※岐阜県保育研究協議会(事務局:岐阜県社会福祉協議会)

公立、私立の認可保育所等の約70%が加入する保育関係団体  
加入数288／県内保育所等422(R7. 4. 1現在)

### (2) 事業内容

- ・岐阜県保育研究協議会が実施する、研究活動に要する経費に助成する。

**(3) 県負担・補助率の考え方**

岐阜県保育研究協議会が実施する、研究活動に要する経費を県が助成することにより、保育の質の向上が図られることから妥当。

**(4) 類似事業の有無**

無

**3 事業費の積算 内訳**

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	324	研究活動事業費
合計	324	

**決定額の考え方**

--

**4 参考事項**

**(1) 後年度の財政負担**

保育の質の向上のためには、継続した研究事業の実施が効果的であり、そのため岐阜県保育研究協議会が実施する研究活動を助成する。

**(2) 事業主体及びその妥当性**

事業主体：岐阜県保育研究協議会

岐阜県保育研究協議会の上部組織として、全国保育協議会（所在地：東京都千代田区事務局：全国社会福祉協議会）があり、当該協議会は各都道府県・指定都市の保育協議会で構成されている。

岐阜県保育研究協議会は、県内の保育の質の向上を目的として、保育所の新たな役割や保育のあり方について、研究、啓蒙活動を行っている。

## 県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	保育研究事業費補助金
補助事業者 (団体)	岐阜県保育研究協議会 (理由) 県内最大の保育所等、保育士が加盟する団体であり、団体の主体的かつ広範な活動により、県内の保育士の質の向上が期待されるため。
補助事業の概要	(目的) 多様化する保育需要に対応するための研究、啓蒙活動等によって、県内の保育の質の向上を図る。  (内容) 岐阜県保育研究協議会が実施する、研究活動に要する経費について助成する。
補助率・補助単価等	定額 (内容) 研究事業費 (理由) 団体が研究活動を実施するための事業費に対し、県が認める支援額とするため。
補助効果	保育士の専門性を向上させ、より質の高い人材を安定的に育成することができる。
終期の設定	令和9年度末 (終期到来時の翌年度以降の事業方針：翌年度以降も継続)

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか 324
------------------------------

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度
	324	324	324

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の質の向上を図ることで、児童にとって充実した保育につながっている。</li> <li>・総会3回 (R4. 5. 27、11. 18、R5. 3. 14) 他各種会議、専門部会・委員会等を開催。</li> <li>・研究発表会 (R5. 1. 28) を開催。</li> </ul>
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の質の向上を図ることで、児童にとって充実した保育につながっている。</li> <li>・総会2回 (R5. 5. 24、R6. 3. 22) 他各種会議、専門部会・委員会等を開催。</li> <li>・研究発表会 (R6. 1. 20) を開催。</li> <li>・不適切保育の再発防止を目的とした施設長セミナーを2回 (R5. 9. 22、27) 開催。</li> </ul>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の質の向上を図ることで、児童にとって充実した保育につながっている。</li> <li>・総会2回 (R6. 5. 20、R7. 3. 14) 他各種会議、専門部会・委員会等を開催。</li> <li>・研究発表会 (R7. 1. 18) を開催。</li> <li>・不適切保育の再発防止を目的とした施設長セミナーを2回 (R5. 9. 22、27) 開催。</li> </ul>

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3: 増加している 2: 横ばい 1: 減少している 0: ほとんどない</p>	
(評価) 3	岐阜県保育研究協議会の研究事業を助成することにより、安定的で質の高い保育士育成等が見込まれるため、事業の必要性は増加している。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3: 期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2: 期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1: 期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0: ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	県内で各施設の保育における研究を実践交流することで、県全体の保育の質の向上を図り、共通の情報を得ることで、保育士等の保育に対する不安を解消している。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2: 上がっている 1: 横ばい 0: 下がっている</p>	
(評価) 1	助成する事業内容、研修内容を見直すことで、さらなる充実に努めた。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 保育現場が多様化し、求められる保育対応力も複雑化していることを踏まえた研究事業の実施が求められる。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 保育所等の団体として保育分野の課題を共有し、改善を図るための主体的研究活動に対する支援を継続することにより、県下の保育の質の維持・向上を図る。</p>
---